

令和6年度 第1回長門市介護人材確保協議会 議事録

1 日 時 令和6年9月26日（木曜日）13時30分～15時00分

2 場 所 長門市役所4階 会議室2

3 出席者 別添委員名簿のとおり（岡野委員、野村委員欠席）

4 議 事

（1）開会 高齢福祉課長あいさつ

（2）自己紹介

（3）会長・副会長選任

立候補者、推薦がないため事務局案を諮り承認を得る。

会長：堀委員 副会長：吉岡委員

（4）報告・協議

1）令和4年度、5年度の介護人材確保に向けた取組報告について

新任の委員がいることから、本市の現状について事務局より説明を行う。

・本市の高齢者人口は、令和2年度をピークに減少が続き、令和22年には、9,726人と令和5年度から4,179人減少する見込み。

・要支援・要介護認定者数も65歳以上人口の減少に伴い、年々減少することが見込まれている。しかし、65歳以上人口に対する要支援・要介護認定者数の割合は上昇していくと推計される。

・市内高校生の市内就職割合は減少傾向であり、就職希望者数も減少している。

・本市では、「事務職」、「運搬・清掃・包装職」以外の職種は、有効求人倍率が高い状況であり、他業種との人材の取り合いになり、介護人材の確保の困難さが伺える。

・本市の令和3年度調査では、市内介護サービス事業所の半分以上が50歳以上であり、居宅介護支援事業所は60歳以上の女性が38.5%を占めている。職員の高齢化が顕著であり、退職による人材不足が深刻化し、事業を継続できなくなる可能性が考えられる。

・本市の令和3年度調査での離職理由の上位は、「職場の人間関係に不満があった」、「他の介護サービス事業所に興味を持った」、「他業種に就職したかったから」となっている。

<令和4年度の取組について>

・地域雇用創出事業補助金、医療・福祉系人材奨学金返還支援補助制度、介護の仕事啓発パンフレット配布（市内高校）について説明を行う。

<令和5年度の取組について>

・地域雇用創出事業補助金、医療・福祉系人材奨学金返還支援補助制度、介護の仕事啓発パンフレット配布（介護フェア）について説明を行う。（医療・福祉系人材奨学金返還支援補助制度は令和5年度から要件緩和）

2）令和6年度の介護人材確保に向けた取組について

産業政策課より以下の説明を行う。

- ・市内高校生の就職状況について説明
- ・高校生等に市内事業所について知ってもらうNPO法人つなぐの各種事業の説明
- ・今年度より新たに創設された「人材確保・副業人材活用等支援事業費補助金」について説明
- ・今年度の山口県産業政策課の人材確保関係予算について紹介
- ・(株)Be winと「雇用促進に関する連携協定」締結による取組説明
- ・今年度から実施している外国人の雇用相談（オンライン相談会）について紹介

<意見交換>

(事務局)

昨年度の協議会で介護職を知ってもらう機会が少ないということから、NPO法人つなぐと連携すると、いろいろな事業で介護職を知ってもらう取組ができると思うが、時間的、人員的にも余裕がない介護事業所にイベント参加のお願いをすることは可能なのでしょうか。

(委員)

毎回、NPO法人つなぐの高校生を対象とした企業ガイダンスに参加させてもらっているが、高校生と会話ができるのでとてもいいイベントだと思っています。

(委員)

若い世代の人たちに、介護の現状を知って、担ってほしい。新しい世代につないでいくことも大事なので、そのようなイベントがあればぜひ参加したいです。

(委員)

市内の社会福祉法人が集まって協議会を作っており、平成28年くらいから、毎月1回は企画委員会をして、年に2回は協議会をやっています。どこの事業所も人材確保については、ずっと課題として取り上げられていますので、社会福祉法人のチラシを各地のふるさと祭り等の地域のイベント等で配布しています。社会福祉法人の集まる場でNPO法人つなぐの取組み紹介ができれば良いと思います。

(委員)

社会福祉協議会では、福祉教育の一環で、学校（小学校、中学校、高校）からの依頼により、講師として市内の社会福祉法人の職員から派遣いただき、高齢者の疑似体験や福祉に関する講和等を行っています。直接介護職と触れ合える場となっています。毎年、6月から10月にかけて主に市内小中学生に実施しています。

(事務局)

NPO法人つなぐのイベント参加をお願いすることは可能でしょうか。

(委員)

毎月の企画委員会で説明することは可能だと思います。

(事務局)

以前に、SNSで施設内の写真を掲載すると効果があるとお話しされていましたが、その後どうでしょうか。事業所内が見えるというのがいいのでしょうか。

(委員)

ホームページやSNSを見て応募したいというお話は何件かあります。行事やちょっとした活動の写真を細かくアップするようにしています。

(事務局)

各事業所にSNSやホームページを作成・更新・リニューアルする人材がいらない場合は、首都圏の人がリモートワークによりできると思うので、副業人材のセミナーや人材確保・副業人材活用等支援事業費補助金の一つの手になると思います。

(事務局)

介護職のイメージアップ・知ってもらう取組として、今年度から新たに始まった小中学生を対象とした「長門夢・みらいフェスタ」で今年度はチラシを配布したいと思います。来年度は、この協議会でブースを出して介護職のPRができたかと考えています。

(事務局)

今年度中に市内事業所を対象とし、介護人材確保に関する研修会をしたいと思っています。テーマの案として2つあり、1つ目は、他市で介護人材確保についての取組みを実施している方をお呼びしてノウハウを学ぶものと、2つ目は最近、外国人雇用についての相談を受けることが増えてきたので、外国人雇用について学ぶものです。

(委員)

外国人雇用については、興味はあるが、法人として検討課題になったままで、そのまま進まないという状況です。

(委員)

外国人雇用について、ヘルパーは言葉の壁が施設よりも高くなるので訪問系は敬遠されがちです。基本1人ですから。

(委員)

訪問介護は、言葉の壁もありますが、日本人同士でもヘルパーさんと利用者さんとで難しい部分もありますので、外国人雇用について必要性は分かっていますが二の足を踏んでいる状況です。外国人が介護の免許を取得して日本に来られていることは知っていますが、対人援助となるとですね。

(委員)

もう一つの案の楽しく介護を発信するという考えはすごく大切だと思います。介護職はネガティブな印象が多いと思います。他市の取組みを聞いてみたいです。

(事務局)

介護フォーラムで、処遇改善加算をしっかりと取り入れている事業所を採用の時に選ぶようになってきているから、報酬改定の加算に準じて動いていくことが大事とお話がありました。

(委員)

今の子供たちは、就職試験の時に、「処遇改善の加算はどのくらいつきますか」ということを面接で聞いてくると聞いてびっくりしました。

(事務局)

今後は、加算の取得に関する研修もいいのではないかと考えています。それでは、今年度は他市での取組みを学ぶ研修とします。

(事務局) 小中学校へのPRについて、職業講和や職業体験や介護施設見学等ができたと思っていますが、そのためには、毎年4月頃に学校の先生は年間行事予定を決めるため、それまでに介護事業所ではこういうことができるという情報を学校にお知らせしなければなりません。今後、市内事業所に向けて講師派遣や施設見学の可否等の調査ができればと思っています。

企画政策課より以下の説明を行う。

- ・令和6年度医療・福祉系人材奨学金返還支援補助制度について説明

(5) そのほか

・外国人の採用には、紹介手数料等で結構お金がかかるため、補助金があれば助かるので検討いただきたいと思います。

・市でころばん体操をほっちゃテレビで流しています。リニューアルを考えて、できれば、事業所単位や職能団体で参加いただき事業所で撮影させていただけると事業所の紹介に繋がるとしています。全事業所にお聞きしますのでご検討いただければと思います。

・来年度に、本協議会として長門夢・みらいフェスアでブース出展したいと思っていますので、どのようなことをしたらよいか考えておいてください。

(6) 閉会